

マタイによる福音書 ふくいんしよ

意見のくいちがい いけん

おたがいの意見や、思いがちがう場合、みなさんは
どうしますか。考えたことを、つぎの空白に書いて
ください。

マタイによる福音書 ふくいんしよ

マタイによる福音書は、神の子イエス・キリストへの
信仰を、地上のイエスさまの生涯に結びつけよう
とするマルコによる福音書の意図を受けついでいま
す。

この福音書の特徴は、イエスさまこそユダヤ人が
待望していたメシアであると描いている事です。イエ
スさまにおいて、旧約の預言者が語った事が実現し
たという主張がくりかえし出てきます。

このメシアはユダヤ人の指導者たちによつて拒否
され、ユダヤ人のみならず、異邦人にも福音が伝えら

れるようになります。つまり、新しい神の民である

教会には、ユダヤ人も異邦人も共にふくまれていま

す。そして、異邦人への宣教がイエスさまの意志に基

づいている事が示されています。この事から、この

福音書は、ヘレニズム地域のユダヤ人キリスト者の

教会で作られ、ユダヤ人への宣教と異邦人への

宣教の対立を解消する意図があったと考えられて

います。

この福音書では、パウロの手紙やマルコによる

福音書とちがって、「福音」をイエスさまが宣教した

内容として語っています。つまり、イエスさまが伝え

た「御国（天の国）」が福音なのです。このようにし

て、「福音」が現実に生きたイエスさまの姿から、教

えに変化していきました。イエスさまは新しい「義の

教師」として描かれています。そして、自分たちキリ

スト教徒こそイスラエルの民の一番正当な継承者だ

と考えるようになっていきました。

